

大阪医科大学 2014 年度後期入学試験 解答速報 物理

平成 26 年 3 月 10 日 実施

[I]

- (1) 中点の電場は、 $E = \frac{2kQ}{R^2}$ と書けるので、求める電場は、 $\frac{kQ}{R^2} - \frac{kQ}{(3R)^2} = \frac{8kQ}{9R^2} = \frac{4}{9}E$ [V/m]
- (2) くり抜いた円の質量を m 、半径 R の円の中心を原点 右向きに x 座標をとって、求める位置を x_1 と置くと、
 $0 = \frac{3mx_1 + m\frac{R}{2}}{4m}$ より、 $x_1 = -\frac{R}{6}$ 以上より、 $\frac{R}{6}$ [m]
- (3) 3 等分したバネ一つのバネ定数は $3k$ で、これを並列につなぐので、 $9k$ [N/m]
- (4) 波長は、 $85.0\text{cm} \times 2 = 1.70\text{[m]}$. よって、振動数は、 $\frac{340}{1.70} = 200$ [Hz]
- (5) スイッチを閉じて十分時間が経った後、C にかかっている電圧は、 $\frac{2}{3}E$. スイッチを切った後、C の真下の R (R_1 と呼ぶ) と、残りの 3 つの R (合成抵抗 $\frac{3}{2}R$ を R_2 と呼ぶ) にコンデンサーの電圧が並列にかかるので、 R_1 で発生するジュール熱がもっとも大きい. 発生するジュール熱は、抵抗の逆数の比になる. よって、 R_1 で発生するジュール熱は、
 $\frac{1}{2}C \left(\frac{2}{3}E\right)^2 \times \frac{3}{5} = \frac{2}{15}CE^2$ [J]

[II]

図の右向きを正とする.

- (1) ① 最大摩擦力との力のつり合いにより $x_1 = \frac{\mu_0 mg}{k}$
- ② $x = x_1$ まで V_0 で等速運動して伸びていくので、摩擦力とバネの弾性力との力のつり合いより、摩擦力の大きさは kx
- (2) ③ $\mu mg - kx$
- ④ 運動方程式 $m\alpha = \mu mg - kx$ より $\alpha = \mu g - \frac{kx}{m}$
- ⑤ $\alpha = -\frac{k}{m} \left(x - \frac{\mu mg}{k}\right) = -\frac{k}{m}y$ より $\frac{k}{m}$
- ⑥ $x_0 = \frac{\mu mg}{k}$
- ⑦ $\omega = \sqrt{\frac{k}{m}}$ より $T = \frac{2\pi}{\omega} = 2\pi\sqrt{\frac{m}{k}}$
- ⑧ $x_{\max} = x_0 + A = \frac{\mu mg}{k} + A$
- (3) ⑨ $y_1 = x_1 - x_0 = \frac{mg}{k}(\mu_0 - \mu)$
- ⑩ V_0
- ⑪ 力学的エネルギー保存則より $\frac{1}{2}kA^2 = \frac{1}{2}k(\text{⑨})^2 + \frac{1}{2}mV_0^2$. 答は $\frac{1}{2}k$
- ⑫ $\frac{1}{2}mV_0^2$
- (4) ⑬ $x = x_0 - A = \frac{\mu mg}{k} - A$
- (5) ⑭ V_0
- ⑮ 振動の中心 x_0 に関して x_1 と対称な点となる. $x = x_0 - (x_1 - x_0) = x_0 - y_1 = \frac{mg}{k}(2\mu - \mu_0)$

[III]

- (1) 気体の状態方程式を変形して, $\rho = \frac{Pm}{RT} \times 10^{-3} \text{ [kg/m}^3\text{]}$, $\rho_B = \frac{Pm}{RT_B} \times 10^{-3} \text{ [kg/m}^3\text{]}$
- (2) $m = 32 \times \frac{1}{5} + 28 \times \frac{4}{5} = 28.8 \doteq 29$, $\rho = \frac{1000 \cdot 10^2 \cdot 28.8 \times 10^{-3}}{8.3 \cdot 300} = 1.15 \dots \doteq 1.2 \text{ [kg/m}^3\text{]}$
- (3) 気球に働く力のつり合いより, $F + \rho_B V_B g = \rho V_B g \quad \therefore F = (\rho - \rho_B) V_B g \text{ [N]}$
- (4) (3) の F が, 気球が持ち上げられる最大の重さであるから, 密度に (1) の値を代入して,

$$F = \frac{Pm}{R} \left(\frac{1}{T} - \frac{1}{T_B} \right) V_B g \times 10^{-3} \text{ [N]} \quad \therefore W = \frac{Pm}{R} \left(\frac{1}{T} - \frac{1}{T_B} \right) V_B \times 10^{-3} \text{ [kg]}$$
- (5) 状態方程式と $PV^\gamma = \text{一定}$ から, $\frac{T^\gamma}{P^{\gamma-1}} = \text{一定}$. よって, $\frac{T_0^\gamma}{P_0^{\gamma-1}} = \frac{T_h^\gamma}{P_h^{\gamma-1}}$

$$\therefore \frac{P_h}{P_0} = \left(\frac{T_h}{T_0} \right)^{\frac{\gamma}{\gamma-1}}$$
- (6) (4) (5) より, 対応する圧力, 温度の値を代入して,

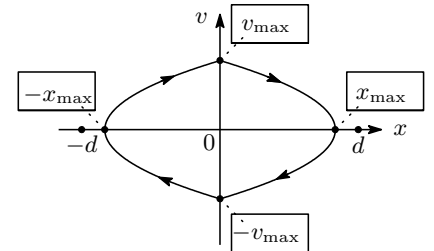
$$\therefore \frac{W_h}{W_0} = \frac{P_h}{P_0} \cdot \frac{\left(\frac{1}{T_h} - \frac{1}{T_B} \right)}{\left(\frac{1}{T_0} - \frac{1}{T_B} \right)} = \frac{T_B - T_h}{T_B - T_0} \left(\frac{T_h}{T_0} \right)^{\frac{1}{\gamma-1}}$$

[IV]

- (1) $V = \frac{V_0}{d} |x| \text{ [V]}$
- (2) 力学的エネルギー保存則より $q \frac{V_0}{d} x_{\max} = W_0 \quad \therefore x_{\max} = \frac{dW_0}{qV_0} \text{ [m]}$
- (3) 力学的エネルギー保存則より $\frac{1}{2} m v_{\max}^2 = W_0 \quad \therefore v_{\max} = \sqrt{\frac{2W_0}{m}} \text{ [m/s]}$, $x_a = 0 \text{ [m]}$
- (4) 力学的エネルギー保存則より $qV + \frac{1}{2} m v^2 = \frac{1}{2} m v_{\max}^2$

$$\therefore x = \frac{md}{2qV_0} (v_{\max}^2 - v^2) = \left\{ 1 - \left(\frac{v}{v_{\max}} \right)^2 \right\} x_{\max} \text{ [m]}$$
- (5) x の正負の領域でそれぞれ等加速度運動をするので,

$$T_c = 4 \times v_{\max} \frac{md}{qV_0} = \frac{4d}{qV_0} \sqrt{2mW_0} \text{ [s]}$$
- (6) サイクロトロン周期は $\frac{2\pi m}{qB} \text{ [s]}$ なので, $B = \frac{2\pi m}{qT_c} \text{ [T]}$



講評: 全体として, 前期よりも易しくなっている.

I の小問集合は基本的な問題だが, (5) は気をつけないと条件を見落とす.

II のベルトコンベア上の単振動は, 問題は高度なのだが誘導が丁寧なので解きやすくなっている. これも落とさない.

III の気球の問題は, (5), (6) の計算で間違え易いが, 全て合わせたい.

IV の電場中の荷電粒子の運動は, 内容は難しくないが, 作業が繁雑.

深くはないが, 点は取りにくい. トータルで 8 割は確保したい.

医歯学部進学予備校 **メビオ**

〒 540-0033 大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋

TEL 06-6946-0109 FAX 06-6941-9416 URL <http://www.mebio.co.jp/>

M e B i o
Scholastics